

宇都宮市MICE戦略【概要版】

第1章 戦略策定について

策定の趣旨

本市においては、新たに宇都宮駅東口交流拠点施設が開業となることから、全国から注目される機会が増加し、MICEの促進につながるが見込まれる。一方で、国内外の各都市においては、MICEの誘致活動や受入体制の強化に積極的に取り組んでおり、また、ポストコロナにおいては、新たな開催形態への対応が求められるなど、都市間におけるMICE誘致競争は、より一層、厳しさが増すものと見込まれている。

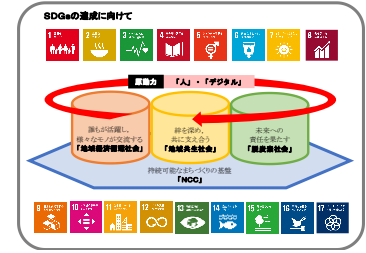
「スーパースマートシティ」を構成する社会の一つである「地域経済循環社会」の構築に向け、産官学民が一丸となり、MICE推進の目指す姿や取組の方向性等を共有しながら、総力をあげて取り組むため、「宇都宮市MICE戦略」を策定する。

戦略の位置づけ

- 「第2次宇都宮市観光振興プラン」の個別計画
- ※ 今後策定する「スポーツ都市戦略」とも連携を図っていく。
- SDGsへの貢献（17ゴールのうちゴール8, 9, 11, 17）

計画の期間

令和4年度から令和8年度までの5年間



第2章 MICEを取り巻く現状

MICEとは

Meeting

主に企業が実施する企業会議、大会、研修会等の会合を指す。

Incentive(Travel)

企業が従業員やその代理店等の表彰や研修等の目的で実施する旅行のことで、企業報奨・研修旅行とも呼ばれる。

Convention

国際会議や学会、産業団体、政府等が開催する大規模な会議を指す。

Exhibition / Event

見本市、展示会やスポーツ・文化イベントなどの広範な概念である。

MICEがもたらす効果

○ ビジネス・イノベーション機会の創出

- 関係者とのネットワーク構築の機会が増加し、新たなビジネスやイノベーションの創出につながる。
- MICEの開催を通じ、新しいアイデアやヒントが得られ、産業の活性化にもつながることが考えられる。
- 本市の技術力や商品・サービスに対する認知・理解を深め、地域の産業振興の促進につながることを期待されている。

○ 地域への経済波及効果

- 開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出すことが期待されている。
- 消費行動の裾野が広いことから、一般的な観光以上に周辺地域への経済効果を生み出すことが期待されている。

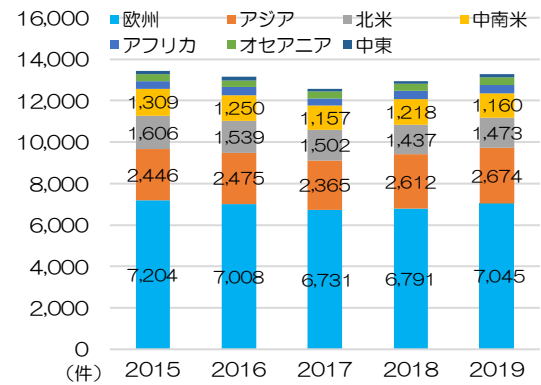
○ 都市のブランドイメージの向上

- ビジネスや研究環境の向上につながり、これらは都市の競争力向上につながることを期待されている。
- 情報の流通やネットワークの構築などは都市のブランドイメージの向上につながり、更には、市民の本市に対するシビックプライドの高まりにもつながる。
- 参加者のリピーターの確保につながるなど、交流人口の増加が期待できる。

国際MICEの潮流

日本における国際会議開催件数は527件（前年比7.1%増）で世界第8位となっており、アジア・オセアニア域内の国・地域別では中国（香港、マカオを除く）に次いで第2位となっている。

ポストコロナにおいては、MICE誘致競争は、より一層、厳しさが増すものと見込まれる。

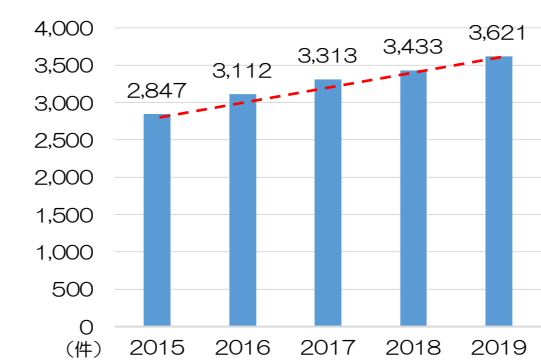


国内MICEの状況

国内で開催される国際会議の総開催件数は、年々増加しており、過去最高を記録している。

300人未満の小規模会議の開催件数が全体の約7割を占めており、500人未満では開催件数の約8割を占めている。

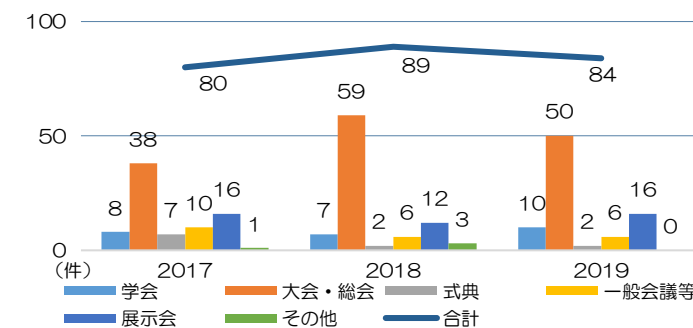
分野別では「科学・技術・自然」が41.6%と最も多く、次いで「医学」が17.4%、「芸術・文化・教育」が13.3%の順となっている。



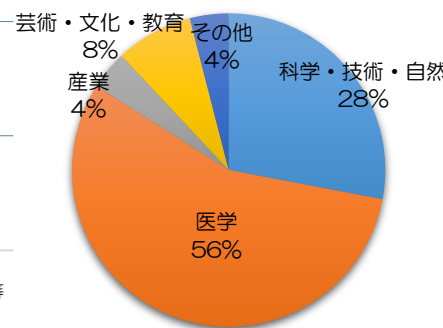
第3章 宇都宮市MICEの現状と課題

宇都宮市におけるMICEの現状

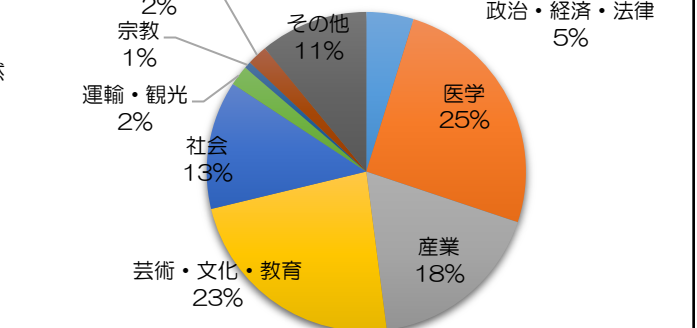
【開催件数の推移】



【学会開催割合】



【大会・総会開催割合】



- 種類別では「大会・総会（企業及び団体の定期大会、総会等）」の開催件数が最も高くなっており、全体の半数を占めている。
- 次いで、「展示会」、「学会」の順となっている。

- 「学会」の分野としては「学術（医療系）」が56.0%と最も多く、次いで「科学・技術・自然」が28.0%を占めている。
- 開催規模としては、「500人未満」が52.0%を占めている。

- 「大会・総会」の分野としては、学会同様、「医学」が25.0%と最も高く、次いで、「芸術・文化・教育」が23.0%を占めている。
- 開催規模としても、学会同様、「500人未満」が68.7%と過半数を占めている。

宇都宮市におけるMICEの課題

【自都市分析（抜粋）】

項目	現状
開催内容	上記「宇都宮市におけるMICEの現状」参照
アクセシビリティ	東京駅から新幹線利用で50分、仙台から65分のアクセス 羽田空港から電車100分（車140分）、成田空港から電車140分（車120分）のアクセス
地域産業	産業における重点分野が明確に示されている。特に、製造業では、「たばこ・飼料」、「業務用機械器具」、「輸送用機械器具」に強みを有している。また、学術研究において強みを有する医療系企業が複数立地している。
学術研究	県内には国際医療福祉大学、自治医科大学、獨協医科大学など複数の医療系大学が立地しており、医療分野の学会を既に市内で誘致・開催している。 宇都宮大学においては工学、農学、教育研究に強みがあるが、同大学との連携が少ない。
都市インフラ	ネットワーク型コンパクトシティをビジョンに掲げ、拠点間の交通システムの整備を進めている。 飲食店等が集積する東武宇都宮駅周辺とJR駅東口との間に距離がある。 都市の宿泊収容能力（規模）は約8,000人であり、シングル・ツインが大多数を占める。
MICE施設	既存の大型施設として宇都宮市文化会館や栃木県総合文化センター、マロニエプラザ等が立地。このほか、MICE施設として利用可能なホテルのバンケットが5つ存在 駅直結のコンベンション施設である宇都宮駅東口交流拠点施設が新たに供用開始 既存のMICE施設は離散して立地しており、コンベンションゾーンとして形成されていないが、二次交通による周遊向上のための連携が図られている。
観光資源	「餃子」の知名度が群を抜いているが、大谷石やいちごなどの観光資源も有する。 観光資源がMICE向けに活用されていない。 世界遺産の日光東照宮や足利フラワーパークなど、近隣に知名度の高い観光資源が立地している。
推進体制	MICEの推進体制は本格的な構築を今後行う段階であり、確立されていない。 市内事業者や市民におけるMICEの意義や政策の方向性に対する理解・意識の浸透はこれから行っていく段階である。 宇都宮観光コンベンション協会にMICE専従職員がおらず、ノウハウが蓄積されていない。

【MICE推進のための課題】

課題①：戦略的な誘致施策の推進	主催者に対し本市開催のメリットを強く訴求できるよう、重点誘致ターゲットの明確化を図る必要がある。
課題②：宇都宮市の資源の有効活用	MICEに活用できる強み等を有効活用するとともに、地域内での消費額を高める仕組み・仕掛けを講じる必要がある。
課題③：推進体制の構築	既存組織の機能強化とステークホルダーとの連携による、宇都宮市としてのMICE推進体制を確立する必要がある。
課題④：提案力のある人材の育成・確保	MICEに関する専門知識やホスピタリティの向上を目指したセミナーの開催等、人材育成と確保に努める必要がある。

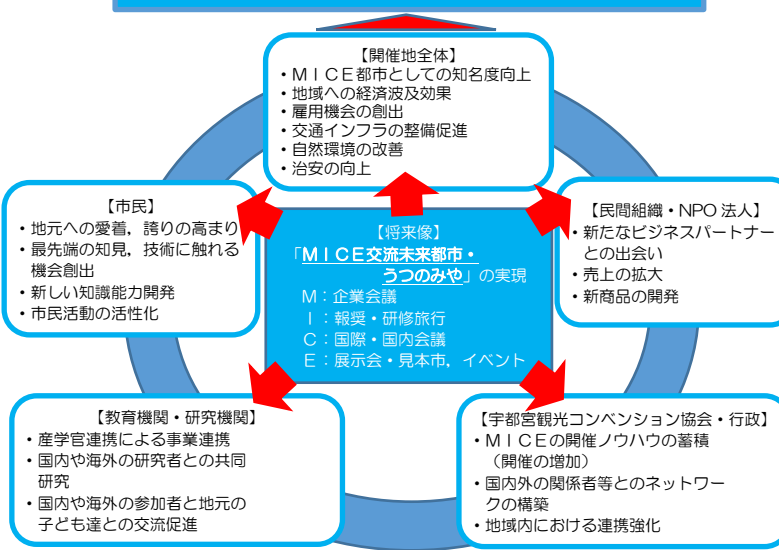
目指す将来像

魅力と交流を創出し続ける都市

～ MICE交流未来都市・うつのみや ～

MICEを推進することにより、地域の力を結集し、宇都宮ならではの「価値」を創出・提供し続けることで、交流人口の拡大による賑わいと経済の活性化を図りながら、将来に渡って魅力と交流を創出する都市の実現を目指す。

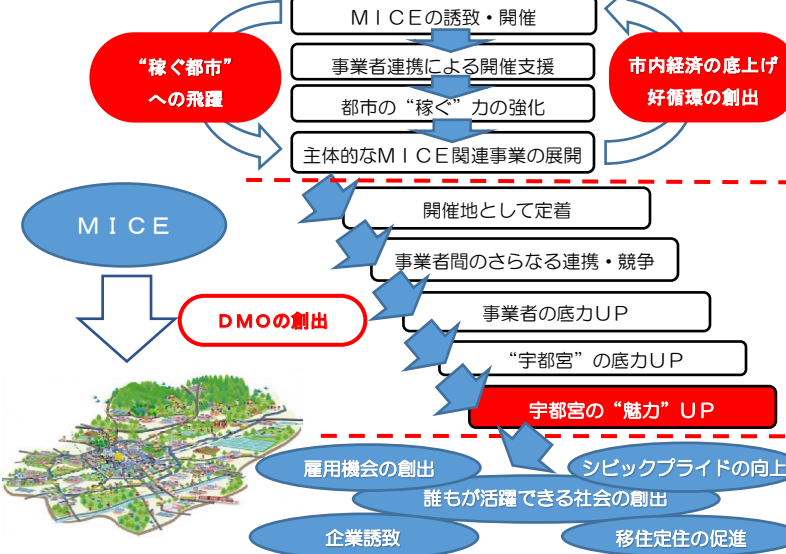
「MICE交流未来都市・うつのみや」の実現



宇都宮市MICEのねらい

MICE誘致・開催を積極的に進め、来訪者層の幅を広げることにより、様々なビジネスチャンスが生まれ、メリットを享受した民間事業者の主体的な参画が促進される。

併せて、参加者の満足度向上などに取り組むことにより、MICE開催地として定着することで、さらなる市内経済の活性化や“稼ぐ”都市への飛躍を図るとともに、MICE開催を通じた本市の魅力在全国に発信することで、市民の愛着や誇りを醸成し、誰もが活躍できる社会の創出を目指す。



宇都宮市MICEの方向性

宇都宮市の産官学民が一丸となり、市の産業競争力、経済力向上のための手段としてMICEを位置づけ、都市の競争力向上と交流人口拡大に取り組む。

基本方針Ⅰ

MICE獲得に向けたプロモーションの強化

本市でのMICE獲得につなげるため、主催者が宇都宮でのMICE開催の優位性や必然性を明らかにできるよう、戦略的・効果的にMICEプロモーションを展開する。

基本方針Ⅱ

MICEを活用した地域産業の活性化

宇都宮ならではの強みや資源をMICEに有効活用するとともに、MICE開催を通じたビジネス機会の創出に取り組むことで、本市における地域経済の活性化に取り組む。

基本方針Ⅲ

MICEを推進するための基盤強化

都市が一丸となり、“稼ぐ”状況を作り出していくため、関連するステークホルダーや地域住民等を巻き込みながら、オール宇都宮によるMICE推進のための基盤を強化する。

重点分野

計画期間において、多くのMICEを本市に誘致できるよう、幅広く誘致活動を展開するが、その中でも、特に積極的に誘致を進める「重点分野」を、以下のとおり設定する。

- 規模軸** 300～500名程度の中小規模MICE
- 地域軸** 東京エリア・東北エリア・県内エリア
- 分野軸** 医学、製造業（機械器具・食品）、LRT関連産業、環境・エネルギー、生産性向上（スマート農業等）、次世代モビリティ（航空宇宙・ロボット・自動車・情報通信）、SDGs、地域資源の有効活用（スポーツ・大谷関連・アーバンスポーツ等）

これらのセグメントにおいて、軸として掲げる「規模軸」、「地域軸」、「分野軸」を掛け合わせ、ターゲットの絞り込みを行い、宇都宮に適したMICEの誘致を戦略的に推進する。

※ 「うつのみや産業振興ビジョン」等の各種計画の改定に合わせ、今後、見直しの可能性あり

宇都宮市MICE戦略

目指す将来像の実現へ向け、以下の基本施策等を掲げるとともに、産官学民が一丸となりMICE振興に取り組む。

基本施策1

宇都宮の強みや特徴を活かしたMICEの誘致【基本方針Ⅰ、Ⅲ】

マーケティングに基づく戦略的な誘致活動を展開するとともに、宇都宮市の魅力を訴求できるようにプロモーションの強化に取り組むことで、多くのMICE獲得を目指す。

施策①：都市プロモーション・誘致活動の強化

- 重点分野における誘致ターゲットの設定
- 重点誘致ターゲットを中心とした主催団体等への継続的なセールス活動
- 主催者等に対する訴求力の高いプロモーションツールの開発
- 開催地決定に影響のある主催者・キーパーソン等の招聘

施策②：マーケティングの強化

- MICE専門機関の統計データベースの活用・分析 など

基本施策2

開催支援・プログラム内容の充実【基本方針Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ】

主催者の問合せにワンストップで応える窓口の設立等のサポート内容の充実や宇都宮の資源を活用したユニークメニューの開発など、MICE開催支援・プログラム内容の充実を図ることで、多くのMICE獲得を目指す。

施策③：MICEサポート内容の充実

- 主催者からの問合せ等に対するワンストップ・サポートの実施
- MICE主催者等のニーズに応えるサポート内容の充実
- 安心・安全なMICE開催に向けたサポートの実施
- MICE補助制度の利用促進、制度内容の充実

施策④：体験プログラム内容の充実

- ユニークメニューの充実
- アフターコンベンション、エクスカージョン等の充実

基本施策3

宇都宮ならではの強みや資源の有効活用【基本方針Ⅱ、Ⅲ】

MICE開催を契機としたビジネス機会の創出や地域産業の国内外へのPRに取り組むとともに、産業視察や工場見学等のテクニカルビジットの受入先の拡充を図ることで、MICE開催を通じた本市地域産業の活性化を目指す。

施策⑤：MICEを契機としたビジネス機会の創出

- 商談会や視察ツアー、ビジネスマッチングイベント等の開催
- MICE開催を契機とした地域産業の国内外へのPR

施策⑥：地域資源の有効活用

- 【再掲】ユニークメニューの充実、アフターコンベンション等の充実
- テクニカルビジット（産業視察・工場見学・企業訪問等）受入先の拡充
- ナイトタイムコンテンツを活用したMICE参加者の消費促進

基本施策4

オール宇都宮による推進体制の構築【基本方針Ⅱ、Ⅲ】

宇都宮としてMICEを実行するための体制を確立するとともに、MICEに関わる多様な人材の育成や地域の機運醸成など、MICEにおける推進体制の高度化を目指す。

施策⑦：MICEの核となる実行体制の整備

- 関係団体等との連携によるMICE推進体制の整備
- 宇都宮観光コンベンション協会における組織体制の強化
- 周辺自治体及び関係団体、県内DMO等との連携強化

施策⑧：MICE分野における人材育成

- MICE分野における人材の育成・確保や人的ネットワークの構築

施策⑨：MICE開催に対する地域の機運醸成

- MICE関連シンポジウムやセミナー等の開催による地域の機運醸成
- 広報紙等を活用した市民への周知活動

成果指標

指標名	基準値 (3年平均値)	目標 (2026年)
MICE開催件数	84件	220件
MICE消費額	7億円	22億円
参加者の満足度	—	80%

※ 新型コロナウイルス感染症の社会的状況等を踏まえ、適宜、見直しを行うものとする。

第5章 推進体制

戦略的な誘致活動を展開するため、MICE施設や各種団体（産業団体、大学・学術団体、金融機関）等と協働で「宇都宮MICEネットワーク」を設立し、情報共有や事業者間連携の強化など、連携を密に図りながら、本市が一丸となり、MICEの推進に取り組む。

宇都宮MICEネットワーク
【主体：協会】

